

再評価結果（令和4年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：長谷川 朋弘

事業名 一般国道6号 <small>なこそ</small> 勿来バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局 関東地方整備局
起終点 自：茨城県北茨城市関本町関本中 至：福島県いわき市勿来町四沢鍵田			延長	4.4 km
事業概要 勿来バイパスは、一般国道6号の茨城・福島県境における津波浸水区間の回避と渋滞緩和等を目的とした延長4.4kmの道路である。				
H27年度事業化		H26年度都市計画決定		H29年度用地着手
全体事業費		282億円		事業進捗率 (令和3年3月末時点)
				約18%
				供用済延長 -km
計画交通量 11,800台/日				
費用対効果 分析結果	B/C： (事業全体)	総費用：(残事業)/(事業全体) 194億円 / 256億円 (事業費：177億円 / 238億円) (維持管理費：17億円 / 17億円)		総便益：(残事業)/(事業全体) 232億円 / 232億円 (走行時間短縮便益：181億円 / 181億円) (走行経費減少便益：43億円 / 43億円) (交通事故減少便益：8.6億円 / 8.6億円)
	(残事業)			
0.9				
1.2				
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=0.8~1.03(交通量 ±10%) 【残事業】交通量：B/C=1.02~1.4(交通量 ±10%) 事業費：B/C=0.9~0.98(事業費 ±10%) 事業費：B/C=1.1~1.3(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=0.8~0.99(事業期間±2年) 事業期間：B/C=1.1~1.3(事業期間±2年)				
事業の効果等 ①国土・地域ネットワークの構築 ・国道6号における交通不能区間を解消する (過去15年間で約56時間の災害等による通行止めが発生) ②個性ある地域の形成 ・主要な観光地へのアクセス向上が期待出来る (北茨城市磯原地区から小名浜港周辺地区までの所要時間 現況：39分 → 整備後：32分) ③安全で安心できるくらしの確保 ・三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる (北茨城市大津町地区からいわき市医療センターまでの搬送時間 現況：31分 → 整備後：30分) 他8項目に該当				
関係する地方公共団体等の意見 ○福島県知事の意見 国の対応方針(原案)案については、異議ありません。 なお、本県の復興・創生を支援するため、コスト縮減を図りながら、早期完成に努めてください。 ○茨城県知事の意見 一般国道6号勿来バイパスは、茨城県・福島県境における津波浸水区域の回避による防災機能の強化や、交通渋滞の緩和による緊急医療活動の支援などの効果が期待されることなどから、本事業の必要性は高く、事業を継続することは妥当と考える。 なお、早期完成に向けて、事業を推進するとともに、徹底したコスト縮減を図るようお願いしたい。				
事業評価監視委員会の意見 対応方針(原案)の事業継続は妥当である。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない				
事業の進捗状況、残事業の内容等 ・平成27年度新規事業化、用地進捗率約28%、事業進捗率約18%(令和3年3月末時点)				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 ・事業の進捗に係る問題はない。				

施設の構造や工法の変更等

- ・防草対策の見直しによるコスト縮減を図っている。

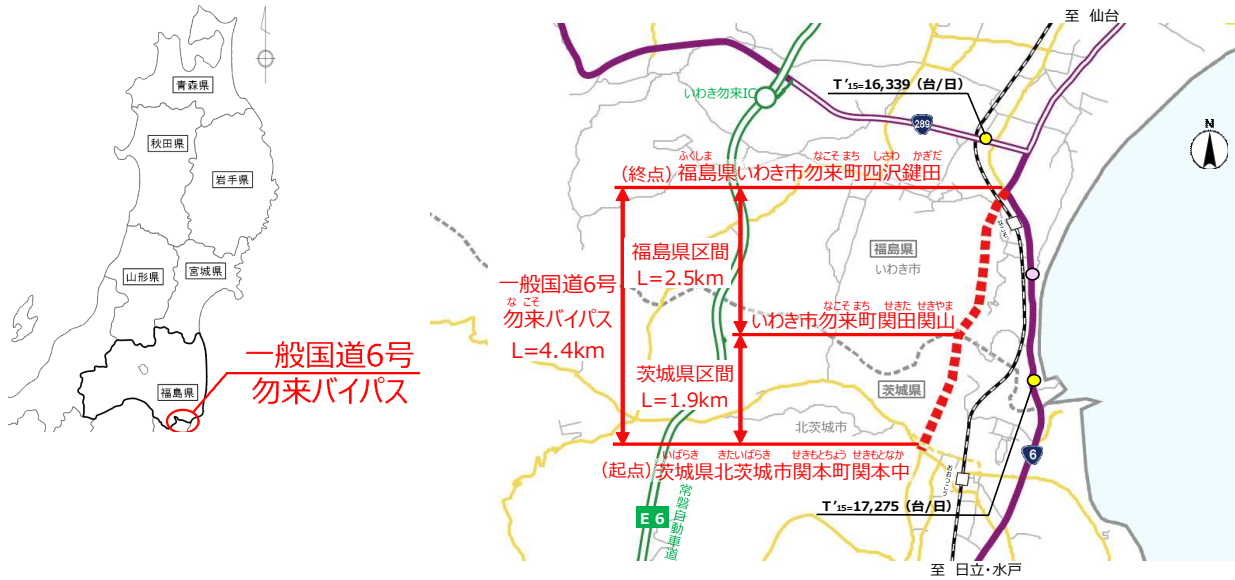
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

混雑の緩和、防災機能の強化、救急医療活動の支援等のため、早期整備の必要性が高い。

事業概要図



凡例		
— (solid line)	： 開通済	
- - - (dashed line)	： 事業中	
その他道路凡例		
— (red line)	： 評価対象区間	
— (green line)	： 高規格幹線道路	
— (purple line)	： 一般国道	
— (yellow line)	： 主要地方道・県道	
車線数		
— (thick line)	： 4車線	
— (thin line)	： 2車線	
その他凡例		
● (yellow circle)	： H27全国道路・街路 交通情勢調査交通量	
○ (purple circle)	： 主要渋滞箇所	

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。